

第 36 回地盤震動シンポジウム
度重なる被害地震から設計入力地震動を考える
新・入力地震動作成手法の使い方と検証 (その 2)

最近の度重なる被害地震の発生により、地震断層および表層地盤と地震動の関係についての一般的な関心も高く、それらを反映した設計入力地震動の重要性が認識されつつある。本シンポジウムでは、被害地震を引き起こした活断層、震源モデル、ならびに地震動特性に関する最新の話題を紹介し、来春公開予定の「地盤震動研究を活かした設計入力地震動作成法」の内陸および海溝型地震への適用例を地震動シミュレーションとともに示す。また、超高層建物黎明期からの長周期地震動への取り組みに関する特別講演も用意されている。これらに関する議論を通して、新・入力地震動作成手法の理解を深め、その普及も含めて今後の方向性を考えることが、本シンポジウムの主旨である。

<主催> 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会
日 時 : 2008 年 12 月 9 日 (火) 10:00 ~ 17:00
会 場 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

内 容

- 【午前の部】 10:00 ~ 11:50 司会: 神野達夫 (広島大学)・高井伸雄 (北海道大学)
- 1 主旨説明 : 加藤研一 (小委員会主査 / 鹿島建設)
- 2 最近の被害地震の地震動の解釈
- 2-1 岩手・宮城内陸地震の活断層に関する知見 : 越谷 信 (岩手大学)
- 2-2 岩手・宮城内陸地震の地震動に関する知見 : 青井 真 (防災科学技術研究所)
- 2-3 中越沖地震の震源モデルに関する最新の知見 : 堀川晴央 (産業技術総合研究所)
- 2-4 中越沖地震の地震動シミュレーション : 釜江克宏 (京都大学)
- 2-5 最近の被害地震で発生した地震動の性質と被害の対応 : 境 有紀 (筑波大学)
- 【午後の部】 13:00 ~ 17:00 司会: 岩田知孝 (京都大学)・飛田 潤 (名古屋大学)
- 3 特別講演「やや長周期地震動と超高層ビル」 : 太田外氣晴 (足利工業大学総合研究センター)
- 4 新・入力地震動作成手法の概要と適用例
- 4-1 地盤震動研究を活かした設計入力地震動作成法 : 川瀬 博 (京都大学)
- 4-2 新潟県中越沖地震に関する適用例 : 野津 厚 (港湾空港技術研究所)
- 4-3 宮城県沖地震に関する適用例 : 大野 晋 (東北大学)
- 4-4 十勝沖地震についての震源モデルの検討 : 渡辺基史 (清水建設)
- 4-5 上町断層について想定される地震動 : 大西良広 (地域地盤環境研究所)・澤田純男 (京都大学)
- 5 総合討論「設計入力地震動に求められるもの」 : 司会: 前田寿朗 (早稲田大学)・吉村智昭 (大成建設)
- 6 まとめ : 山中浩明 (小委員会幹事 / 東京工業大学)

記録: 野畑有秀 (小委員会幹事 / 大林組)

定 員 : 200 名 (当日会場先着順)
参加費 : 会員 5,000 円、登録メンバー 5,500 円、会員外 6,000 円、学生 3,000 円
* 資料代 3,000 円含む
問合せ : 事務局研究事業 G 伏見